



Title	第1章 テレビニュースにおける番組フォーマットと報道スタイルの特質
Author(s)	
Citation	関西大学社会学部紀要, 41(2): 3-6
Issue Date	2010-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/4913">http://hdl.handle.net/10112/4913</a>
Rights	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

## 第1章 テレビニュースにおける番組フォーマットと報道スタイルの特質

### 1. はじめに

私たちがふだんテレビ画面で接しているニュース番組は、日本のテレビジョン放送開始とともに時を刻んでいる。日本のテレビジョン放送は、1953年2月1日に「日本放送協会（NHK）」が、同年8月28日に「日本テレビ放送網株式会社（NTV）」が、それぞれ本放送を開始したところから出発している。

NHKの無線局免許状の放送事項には「報道、社会、教養、教育、宗教、音楽、演芸・娯楽、スポーツ」が記載されており、NTVの無線局免許状には、NHKの事項に加えて、「スポットアナウンスによる広告」が記載されている。公共放送のNHKと民間放送のNTVの違いによるものであることは言うまでもないが、ともに総合的な番組編成が課せられている点は同じであり、現在の地上波テレビジョン放送においてもその基本は変わらない。放送開始当初のNHKの番組編成方針には、つぎのように記されている。

「NHKのテレビジョン放送番組は、ラジオと同じく、公共放送という建て前から、教養、報道に力をそそぎ、娯楽番組でも努めて明朗、健全で一家そろって楽しめるものを組むことを根本方針としている。耳だけが頼りであったラジオの場合と異なり、視覚による要素が決定的に支配するテレビジョンの力を活かすことを当座の編成方針とし、視聴覚教育の完成、視覚的芸能番組の開拓、ニュースの視覚化、フィルムによる海外との番組交換に重点を置くなど、テレビジョンが国民の新しい文化財となるよう<sup>ぎん</sup>新な番組の企画編成を行う。」（日本放送協会・編集，1977b，p.216-7、傍点は引用文のまま）

こうした方針のもと、教養部門、文芸部門、報道部門の3つの番組ジャンルが掲げられ、教養・報道53%、文芸47%の編成比率が示され、各部門の具体的な方針が示されている。報道部門については「ニュース映画、実況放送に力点を置いて、ニュースの立体化、視覚化に努め、外国ニュースも契約して、その充実をはかる」と説明されている。その放送開始以来、ニュース番組の編成では「実況」と「視覚化」が強く意識されてきたのである。

また、開局段階でのNTVの放送計画の概要においても、放送事項と関連づけて番組ジ

ジャンルを4つに分類し、その第一に「報道並びに社会関係番組」が掲げられ、つぎのような方針が示されている。

「テレビ放送の興味の中心は、何といてもニュース特に現場からの報道にあります。よって日本テレビはその移動班からの放送は勿論、朝日、毎日、読売の3大新聞社、外国通信社、ニュース映画会社等の協力によって内外社会の動態を迅速に視聴者にサービスすることに努めます。」(同上, p.218)

NTVの方針からも、ニュース報道はテレビ放送番組の一つの大きな柱であり、テレビジョン放送におけるニュースの実況や速報に重点が置かれている。

テレビジョン放送のニュース番組は、放送の開始とともに、先行する新聞やラジオ・映画のニュースの影響を受けながら、それらの特徴を引き継ぐ一方で、NHKやNTVの方針にもあるように、徐々に新たなテレビニュースの開拓がすすめられ、放送技術の革新やメディア環境の変容とともに、テレビ独自のニュース番組のフォーマットやニュース報道のスタイルを確立してきたといえよう。

本章では、日本におけるテレビニュースの主要な番組フォーマットの変遷をたどりながら、今日的なニュース番組の特質を、その番組構成や表現形式の観点から検討してみたい。

## 2. テレビニュース番組の変遷

上に示したように、報道番組は、教養、教育、娯楽、スポーツなどの番組とともに、テレビジョン放送の開始以来、番組編成 (programming) における柱の1つになっており、日々の出来事を中心に伝えるニュース番組は、報道部門の主要な番組であり、日常的なテレビ・ジャーナリズムの活動として位置づけることができる。

放送開始間もない時期 (1953年2・3月分) のNHKの番組時刻表をみても、平日の午後 (12:50~12:55) と夕方 (19:15~25) の時間帯に「ニュース・天気予報」が、また夜 (20:30~45) の時間帯に「ニュース解説」が帯番組として放送されていたことが確認できる (同上, p.218、当時は午前中の放送はない)。新聞紙面やラジオニュースからだけではなく、テレビ画面からも毎日にニュース報道に接することができるようになり、テレビ受像機の世帯普及率やニュース番組嗜好の高まりとあいまって、「テレビでその日のニュースを知る」という視聴習慣が形成されていくことになる<sup>1)</sup>。

現在のテレビニュース番組の編成やフォーマットを検討するうえで、放送初期からの重

要な変化は、「ニュースネットワーク」の確立、「キャスターニュース」の登場、ニュース番組の「ワイドショー化」であろう。以下、この3点について若干の整理をしておきたい。

### (1) ニュースネットワーク

公共放送と民間放送の二元体制をとる日本のテレビジョン放送では、とくに民間放送における全国的なネットワークが形成されなければ、「全国ニュース」を基本とする、現在の

表1-1 民間放送のテレビニュース・ネットワークの沿革

[JNN]	
1958年	ラジオ東京など5社、「テレビニュースに関するネットワーク協定」締結
1959年	16社が「JNN ニュース協定」締結
1960年	5社連盟結成
1965年	「テレビジョン・ネットワーク協定」（業務協定）個別局と順次締結
1969年	「JNN ニュース基金」設立
1971年	「JNN ネットワーク協議会」設立
1972年	「番組強化基金」設立（77年終了）
1994年	「共同制作番組基金」設立
[NNN/NNS]	
1966年	NNN が19社加盟で発足
1967年	日本テレビと読売テレビの間で「業務協定」締結
1972年	日本テレビと札幌テレビの間で「ネットワークに関する業務協定」締結／NNS18社加盟で発足
1973年	「日本テレビ系5社協定」発効
1974年	福岡放送、中京テレビ、読売テレビなどと順次業務協定締結／番組制作特別強化基金発足
[FNN/FNS]	
1959年	フジテレビなど基幹4社、「番組交流協定」締結
1964年	7社による基幹ネットワーク完成
1966年	フジテレビなど基幹5社によりFNN協定成立
1969年	「フジネットワーク業務協定」成立、FNS発足
1983年	「フジネットワーク業務協定」改定
1987年	「FNSの日」始まる
1999年	「新業務協定」締結
[ANN]	
1960年	日本教育テレビ、毎日放送、九州朝日放送で初のネットワークニュース実施
1964年	毎日放送と「相互ネットワークに関する協定書」、九州朝日放送と「業務協定」をそれぞれ締結
1970年	ANN発足
1974年	加盟17社で「ANN ニュース協定」締結／「ANN ニュース基金」設立
1984年	12社で「スポーツニュース制作協定」発足
[TXN ネットワーク]	
1982年	テレビ大阪開局で「ネットワーク業務協力に関する基本協定」締結
1983年	テレビ愛知開局で「メガTON ネットワーク」完成
1991年	「TXN ニュースネットワーク基本協定」「TXN ネットワーク実施協定」締結／ネットワーク名を「TXN ネットワーク」に改称

（社）日本民間放送連盟・編集（2001）『民間放送50年史』p.21より引用

ようなニュース番組の編成は成立しない。公共放送のNHKは独立した全国放送ネットワークの体制を独自に整備することが可能であったが、原則として、県域単位で放送事業を行う民間放送では、相互に協力態勢をとり、一つの「ネットワークのような形態」をとらねばならなかった。

民間放送のテレビニュース・ネットワークは、まず1959年8月にラジオ東京（現・TBS）系列がJNN（ジャパン・ニュース・ネットワーク）を組織したのを皮切りに、1966年4月に日本テレビ系列のNNN（日本ニュースネットワーク）、同年10月にフジテレビ系列のFNN（フジニュースネットワーク）が相次いで発足し、その後1970年1月には日本教育テレビ（現・テレビ朝日）系列のANN（オールニッポン・ニュースネットワーク）が、1983年9月にテレビ東京（元・東京12チャンネル）をキー局とするTXN・メガTONネットワークが結成され、現在の民間放送テレビ5系列のニュースネットワーク体制が確立された<sup>2)</sup>。

5系列の沿革は表1-1に示したとおりであるが、現在の各ニュースネットワークの加盟社は、JNN28社、NNN30社、FNN28社、ANN26社、TXN6社、となっている。これらにより、民間放送の全国ニュースは、在京キー局を中心とした「ネットワーク・ニュース」番組として編成されている。

## (2) キャスターニュース

日本におけるテレビニュース番組はNHKの本放送開始の1953年2月1日から放送されている。前川佐重郎（2003）によれば、この日は午後2時から放送が開始され、特別編成でニュースは3回放送されている。まず、午後3時から15分間、『NHKニュース』のタイトルでニュース映画が放送され、ついで午後7時から『ニュース映画』のタイトルでニュースが繰り返され、さらに午後7時20分から5分間、『ニュース』のタイトルで、「パターンと写真や地図などを使った一般ニュース」が放送された。最初に放送された『NHKニュース』は当時映画館で上映されていたニュース映画（日本映画新社提供）をそのまま画面に映し出したものであったという<sup>3)</sup>。このようにNHKのニュース番組は①「ニュース映画」と②「パターンニュース」のフォーマットで開始された。

また、NTVも開局当初から、①自社カメラマンによるフィルムと、パターン・スライドとを組み合わせ構成した『NTVニュース』と、②朝日・毎日・読売の三新聞社提供によるフィルムの『三社ニュース』の、二本柱でニュース番組を編成していた（テレビ報道研究会編、1980、p.17）。当初は、NHK・NTVともに自前のフィルム現像設備を持っておらず、外部の現像所に委託をしてニュース映画を放送していたが、1956年にNTVが、1957